

子どもたちの未来をはぐくむ

学校給食無償化の実現を

(聞き手：山本さん(中学生の子育て中、東野川在住))

●重国さんは、小中学校の給食費無償化を訴えていますね。

重国 ええ、どうしても実現させたい政策です。憲法には「義務教育は無償」とあり、給食は学校給食法で「食育推進の場」とあるように教育の一環です。その理念から言えば本来無償化すべきですが、いまは食料費等を徴収しています。諸物価が高騰しているいま、**子育て世代の負担軽減**の

視点からも、無償化は必要です。

●実現しますか



重国・・すでに全国2550を超える市町村が無償化し、都内でも**世田谷区など8区が実施を表明**(2月19日現在)しています。狛江市でも、共産党市議団が学校給食無償化の予算要望を市長に届け、市民団体からも署名とともに要望書が出されています。そうしたもと2023年度予算案には、第3子以降を無償化する予算が盛り込まれました。**第一**

歩ですが、対象はほんの二部(約140世帯)にとどまっています。すべての小中学生に広げていくことが必要です。

●狛江は財政が厳しいのでは…

重国・・今はそんなことありません。矢野市民派市政の時、市民ぐるみの行革を成功させて、莫大にあつた借金の返済を進めました。21年度決算では23億円の黒字を出し、**市の貯金(基金)は約65億円**になると見込まれています。**現在は財政にゆとり**があります。**給食費の無料化は2億4250万円**で実現できるのです。**あとは市長の政治決断**だけです。

●わかりました。市長に決断させるには、市民の切実な声をもっと市に届けることが大切ですね。

重国・・私はその先頭に立つてがんばります。

